

## 高等学校 芸術（書道）

### 解答についての注意点

- 1 解答用紙は、マーク式解答用紙と記述式解答用紙の2種類があります。
- 2 大問 **1** ～大問 **2** については、マーク式解答用紙に、大問 **3** ～大問 **4** については、記述式解答用紙に記入してください。
- 3 解答用紙が配付されたら、まずマーク式解答用紙に受験番号等を記入し、受験番号に対応する数字を、鉛筆で黒くぬりつぶしてください。  
記述式解答用紙は、全ての用紙の上部に受験番号のみを記入してください。
- 4 大問 **1** ～大問 **2** の解答は、選択肢のうちから、問題で指示された解答番号の欄にある数字のうち一つを黒くぬりつぶしてください。  
例えば、「解答番号は **1** 」と表示のある問題に対して、「**3** 」と解答する場合は、解答番号 **1** の欄に並んでいる ① ② ③ ④ ⑤ の中の ③ を黒くぬりつぶしてください。
- 5 間違っておりつぶしたときは、消しゴムできれいに消してください。二つ以上ぬりつぶされている場合は、その解答は無効となります。
- 6 その他、係員が注意したことをよく守ってください。

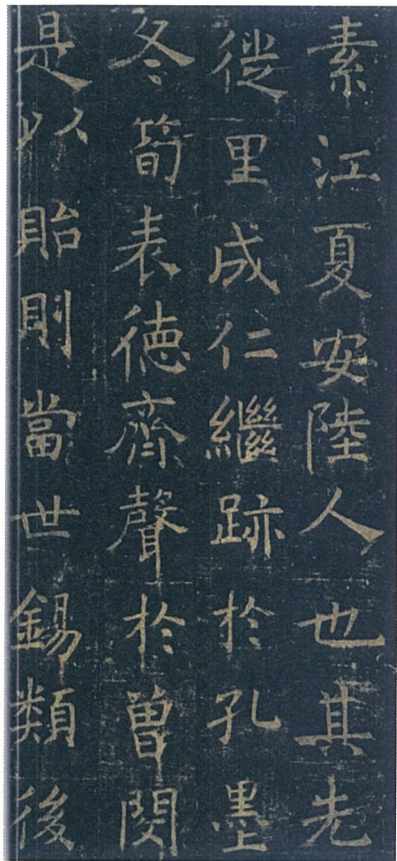
指示があるまで中をあけてはいけません。

1

次の(1)、(2)の問いに答えよ。

(1) 次の図版A～図版Gについて、それぞれア～ウの問いに答えよ。

図版A



ア 筆者を1～5から一つ選べ。解答番号は

1

- 1 虞世南      2 欧陽脩      3 欧陽詢      4 顔真卿      5 褚遂良

イ 作品名を1～5から一つ選べ。解答番号は

2

- 1 孟法師碑      2 伊闕仏龕碑      3 孔子廟堂碑  
4 高貞碑      5 美人董氏墓誌銘

ウ 図版Aについて説明した1～5のうち、誤っているものを一つ選べ。解答番号は

3

1 この碑は、江夏安陸の女道士の徳を讃えるため弟子の陳光らが建てたもので、撰文は岑文本による。

2 唐の時代、六四二年に作られた碑は現存しない。

3 現在三井聴冰閣に秘蔵されている拓本が有名だが、原拓は台北の故宫博物院にも収蔵されている。

4 帖には、明時代の王世貞や、清時代の王文治などの跋文がある。

5 筆者は同時代の書家の書風を学び、これに隸法を加え、古意の豊かな書風を作り出したと評されている。



ア 時代を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 北魏
- 2 殷
- 3 秦
- 4 春秋戦国
- 5 後漢

イ 作品名を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 石門頌
- 2 泰山刻石
- 3 開通褒斜道刻石
- 4 萊子侯刻石
- 5 西狭頌

ウ ( ) に入る適切な語句を1～5から一つ選べ。解答番号は

磨崖碑として現存する最古のものであり、陝西省褒城県北の石門中にあつたが、現在は陝西省の漢中市博物館に保存されている。書体は ( ) で、細身でありながら強い線で、文字の大小を自由に表現している。

- 1 金文
- 2 楷書
- 3 八分隸
- 4 古隸
- 5 大篆



ア 筆者を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 包世臣
- 2 金農
- 3 劉墉
- 4 趙之謙
- 5 鄭燮

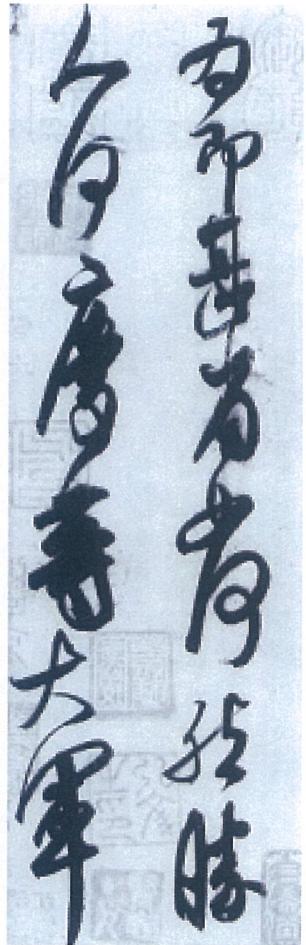
イ 筆者に関連のない語句を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 揚州八怪
- 2 清時代
- 3 ゴシック体様式
- 4 永字八法
- 5 天発神識碑

ウ ( ) に入る適切な語句を1～5から一つ選べ。解答番号は

筆者は、詩文・書画・篆刻に長じており、鑑識に詳しく、書については漢隸をよく学ぶなど、後の( )派に多くの影響を与えた。

- 1 書学
- 2 帖学
- 3 碑学
- 4 古筆学
- 5 文字学



ア 筆者として伝えられている人名を1～5から一つ選べ。解答番号は

10

- 1 智永
- 2 陸機
- 3 太宗
- 4 王献之
- 5 楊凝式

イ 作品名を1～5から一つ選べ。解答番号は

11

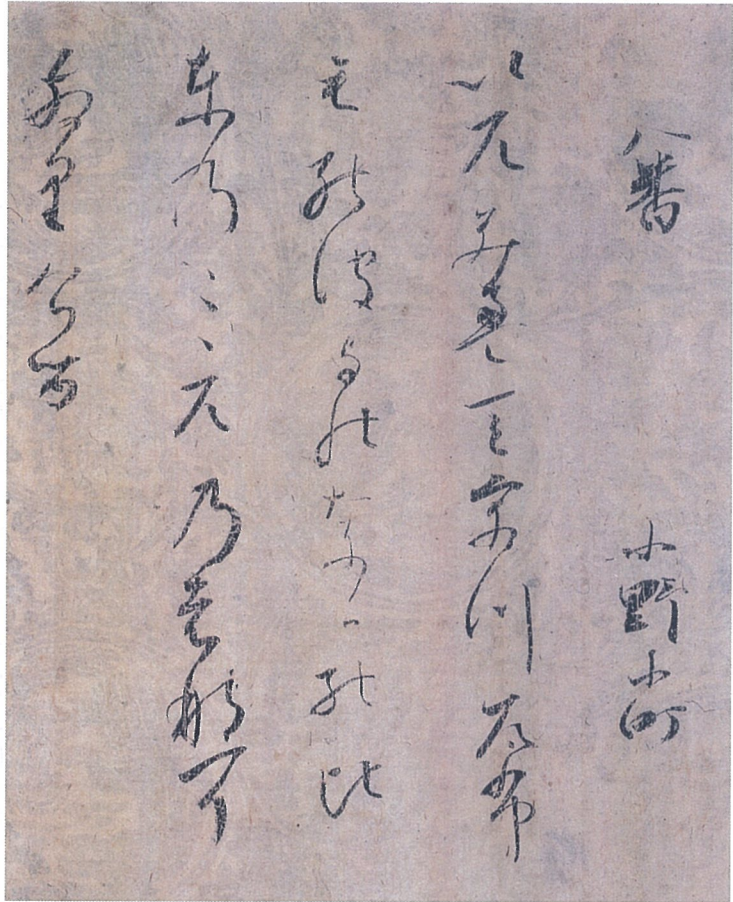
- 1 温泉銘
- 2 真草千字文
- 3 中秋帖
- 4 平復帖
- 5 孔侍中帖

ウ ( ) に入る適切な語句を1～5から一つ選べ。解答番号は

12

清の乾隆帝は、「快雪時晴帖」、「伯遠帖」と図版Dの作品を合わせて ( ) と称し、鑑賞した。

- 1 三品
- 2 三珍
- 3 三宝
- 4 三希
- 5 三絶



ア 作品名を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 大色紙      2 十五番歌合      3 粘葉本和漢朗詠集
- 4 秋萩帖      5 熊野懷紙

イ (      ) に入る適切な語句の組合せとして正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。

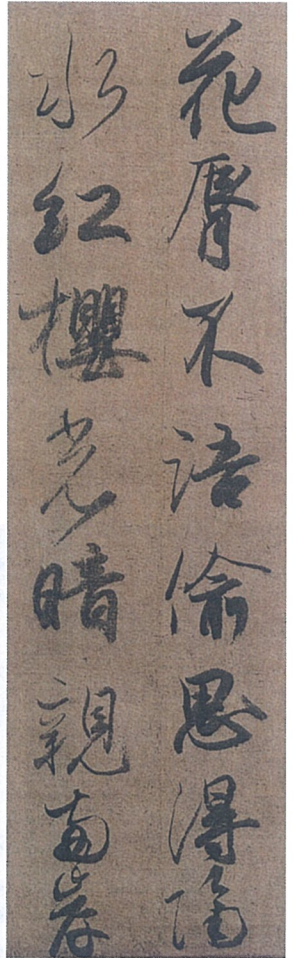
解答番号は

この作品は、和歌の撰者である ( ① ) の筆と伝えられているが、大ぶりの草仮名による力強い表現であることから、現在では ( ② ) の筆とすることが定説となっている。

- 1 ① 藤原定家      ② 源俊頼
- 2 ① 藤原行成      ② 藤原公任
- 3 ① 藤原行成      ② 藤原伊房
- 4 ① 藤原公任      ② 藤原伊房
- 5 ① 源俊頼      ② 藤原行成

ウ 図版 E の作品に関連の深い語句を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 消息      2 卷子本      3 散らし書き      4 山家集      5 切継ぎ



ア 筆者を1～5から一つ選べ。解答番号は 16

- 1 嵯峨天皇
- 2 小野道風
- 3 橘逸勢
- 4 藤原佐理
- 5 藤原行成

イ 作品名を1～5から一つ選べ。解答番号は 17

- 1 光定戒牒
- 2 詩懷紙
- 3 久隔帖
- 4 屏風土代
- 5 白氏詩卷

ウ 平安時代の書道史に関する①～⑤の語句の組合せには、誤りが含まれているものがある。正しいものを○、誤っているものを×とするとき、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

解答番号は 18

- ① 小野道風 | 三跡の一人
- ② 最澄 | 三筆の一人
- ③ 藤原行成 | 上代様
- ④ 風信帖 | 書状
- ⑤ 本阿弥切 | 伝西行

|     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 5   | 4   | 3   | 2   | 1   |
| ① ○ | ① ○ | ① × | ① × | ① ○ |
| ② ○ | ② × | ② × | ② ○ | ② × |
| ③ ○ | ③ ○ | ③ × | ③ ○ | ③ × |
| ④ × | ④ ○ | ④ ○ | ④ × | ④ ○ |
| ⑤ ○ | ⑤ × | ⑤ ○ | ⑤ × | ⑤ ○ |



ア 筆者を1～5から一つ選べ。解答番号は

19

- 1 市河米庵
- 2 近衛信尹
- 3 松花堂昭乗
- 4 本阿弥光悦
- 5 貫名崧翁

イ ( ) に入る適切な語句を1～5から一つ選べ。解答番号は

20

この作品は、絵師( )が描いた鶴の下絵の上に筆者が和歌を書いたもので、二人の合作による作品は数多く残されている。

- 1 尾形光琳
- 2 俵屋宗達
- 3 池大雅
- 4 狩野探幽
- 5 長谷川等伯

ウ ( ) に入る適切な語句を1～5から一つ選べ。解答番号は

21

( ) は、筆者と同じく寛永の三筆の一人で、滝本流の祖である。

- 1 市河米庵
- 2 近衛信尹
- 3 松花堂昭乗
- 4 本阿弥光悦
- 5 貫名崧翁



(2) 次の文章は、尊円親王『入木抄』の一節である。次のア～ウの問いに答えよ。

一、筆を取事

御稽古のはじめより可<sub>下</sub>令<sub>二</sub>取定<sub>一</sub>御<sub>上</sub>候。あしくとりつけ候ぬれば、難<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>改事にて候也。其取様は、中指たけたかの両節の中央に筆を置いて、頭指人さしのそばと大指の腹とにておさへて取候也。無名指くすしと小指と二をば、にぎらずしてひしとよせて、中指のしたにかさねて中指の力になし候也。掌の内をばうつろにして不<sub>レ</sub>拳候也。大指のふしをば、立たるもそらしたるも見苦候。(後略)

ア ここで言う執筆法を1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 鶯頭法    2 撮管法    3 握管法    4 双鉤法    5 単鉤法

イ 「入木」についての説明文について、空欄に適する言葉をそれぞれ、次の1～5から一つ選べ。

空欄①の解答番号は 、空欄②の解答番号は

「入木」とは、( ① ) が書いた書の墨痕が ( ② ) ( ) いた故事に由来し、転じて書道・習字のこと。

( ① )

- 1 太宗    2 王献之    3 王羲之    4 張芝    5 智永

( ② )

- 1 木に三分浸み込んで    2 世に広く流布して    3 後代に長く残されて  
4 木に深く刻まれて    5 桐箱に入れられて

ウ 『入木抄』は尊円親王により著されたものとされている。彼がおこした和様の書派で、「御家流」と称される書流の名称として適切なものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 世尊寺流    2 青蓮院流    3 法性寺流    4 宸翰様    5 後京極流

高等学校学習指導要領（平成三十年三月告示）第2章第7節 芸術 第2款第10 書道Ⅰについて、(1)～(3)の問いに答えよ。

- (1) 書道Ⅰの目標は、芸術科の目標を受けて次のように示されている。①～⑤に入る適切な語句をそれぞれ1～5から一つ選べ。

目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や ①、多様性などについて幅広く理解するとともに、  
 ②の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書よさや美しさを感じ、③に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようになる。
- (3) ④書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、⑤を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

①

解答番号は

26

1 構成

2 基本型

3 形式

4 造形

5 方向性

②

解答番号は

27

1 基本的な知識

2 書道への理解

3 文字構成法

4 書写能力

5 用筆・運筆

③

解答番号は

28

1 意図

2 思考

3 イメージ

4 着想

5 発想

④

解答番号は

29

1 個性的に

2 基本を守り

3 興味を広げながら

4 主体的に

5 他者と共感しながら

⑤

解答番号は

30

1 表現意欲

2 表現力

3 創作能力

4 書への理解力

5 感性

(2) 次の①～⑥は、書道Ⅰ「2内容 A表現 (3)仮名の書」における指導事項の内容である。  
 ア「思考力、判断力、表現力等」、イ「知識」、ウ「技能」の資質・能力に分類したとき、正しい  
 組合せはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は 31

- ① 意図に基づいた表現
- ② 用具・用材の特徴と表現効果との関わり
- ③ 線質や書風と用筆・運筆との関わり
- ④ 古典に基づく基本的な用筆・運筆
- ⑤ 古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成
- ⑥ 連綿と単体、線質や字形を生かした表現

|          |         |          |          |         |
|----------|---------|----------|----------|---------|
| 5        | 4       | 3        | 2        | 1       |
| ア<br>①③⑥ | ア<br>①⑤ | ア<br>②③⑤ | ア<br>⑥   | ア<br>①⑥ |
| イ<br>②⑤  | イ<br>②③ | イ<br>④   | イ<br>①②  | イ<br>②⑤ |
| ウ<br>④   | ウ<br>④⑥ | ウ<br>①⑥  | ウ<br>③④⑤ | ウ<br>③④ |

- (3) 書道 I における「共通事項」、「3 内容の取扱い」の文章の傍線部①～④、⑤～⑩には誤りが含まれているものがある。正しいものを○、誤っているものを×としたとき、正しい組合せはどれか。それぞれ 1～5 から一つ選べ。

〔共通事項〕

(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 用筆・運筆から生み出される書の具象化とその表現効果との関わりについて理解すること。  
 イ 書を構成する要素<sup>③</sup>について、それら相互の影響<sup>④</sup>がもたらす働きと関わらせて理解すること。

解答番号は

32

|     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 5   | 4   | 3   | 2   | 1   |
| ① × | ① ○ | ① × | ① × | ① ○ |
| ② × | ② ○ | ② × | ② ○ | ② ○ |
| ③ ○ | ③ × | ③ × | ③ ○ | ③ ○ |
| ④ ○ | ④ × | ④ × | ④ × | ④ ○ |

3 内容の取扱い

(7) 内容の「A 表現」の指導に当たっては、中学校国語科の漢字学習との関連を十分に考慮するとともに、高等学校芸術科との関連を図り、学習の成果を生活に生かす視点から、目的や用途に応じて、硬筆も取り上げるよう配慮するものとする。

(9) 内容の「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導に当たっては、思考力、判断力、表現力等の育成を図るため、芸術科書道の特質に応じた言語能力を適切に位置付けられるよう指導を工夫する。なお、内容の「B 鑑賞」の指導に当たっては、作品について意思をもって批評する活動などを取り入れるようにする。

解答番号は

33

|     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 5   | 4   | 3   | 2   | 1   |
| ⑤ × | ⑤ × | ⑤ × | ⑤ ○ | ⑤ ○ |
| ⑥ × | ⑥ × | ⑥ ○ | ⑥ × | ⑥ ○ |
| ⑦ ○ | ⑦ ○ | ⑦ × | ⑦ ○ | ⑦ × |
| ⑧ × | ⑧ × | ⑧ × | ⑧ ○ | ⑧ ○ |
| ⑨ × | ⑨ ○ | ⑨ × | ⑨ × | ⑨ ○ |
| ⑩ ○ | ⑩ ○ | ⑩ ○ | ⑩ × | ⑩ × |

3 次の(1)～(7)の問いに答えよ。

(1) 次の①～⑤の旧字体を常用漢字の字体(楷書)で書け。

- ① 假
- ② 處
- ③ 團
- ④ 樓
- ⑤ 爐

(2) 次の①～⑤のひらがなの字源を楷書で書け。

- ① け
- ② こ
- ③ そ
- ④ つ
- ⑤ ら

(3) 次の①～⑤に示す文字を楷書で書け。

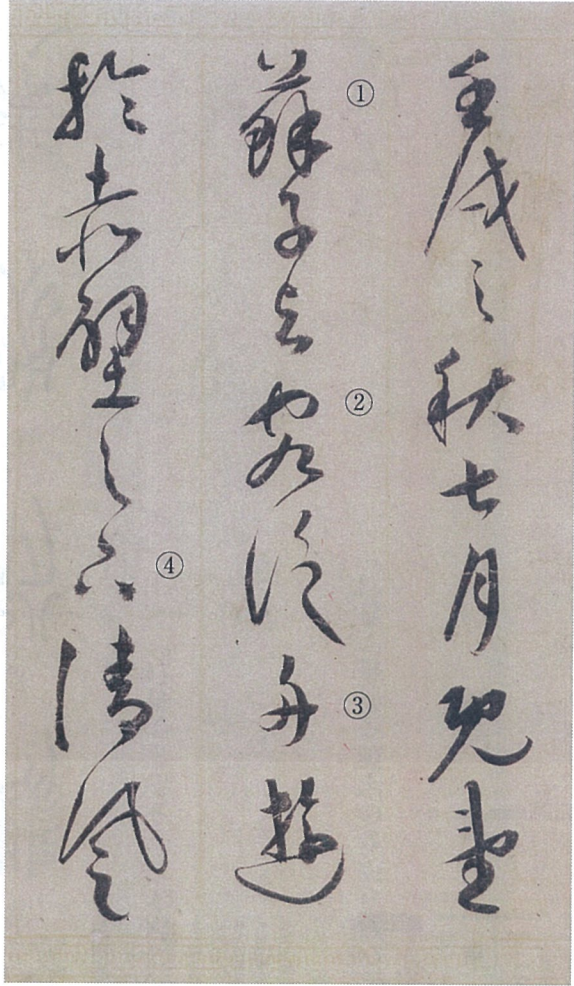
- ① 
- ② 
- ③ 
- ④ 
- ⑤ 

(4) 次の①～⑤に示す文字を草書で書け。

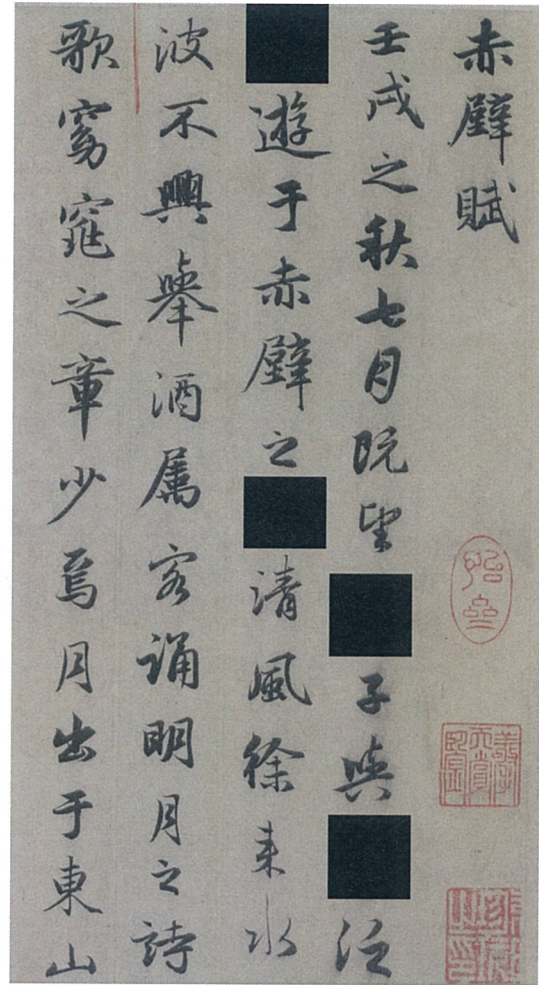
- ① 東
- ② 長
- ③ 舞
- ④ 新
- ⑤ 重

(5) 図版A、Bについて、ア、イの問いに答えよ。

図版A



図版B (一部を黒く塗りつぶしている)



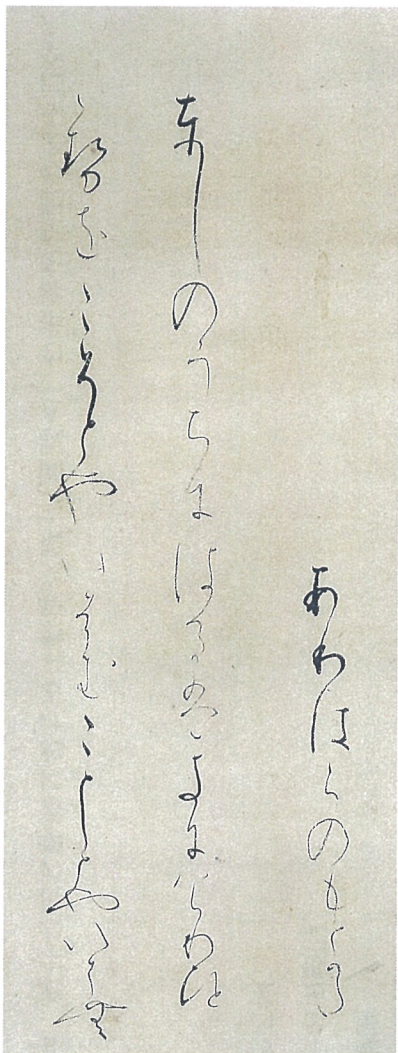
ア 図版Aの①～④の草書をそれぞれ楷書で書け。

イ 次の⑤～⑧に入る適切な人物名を記せ。

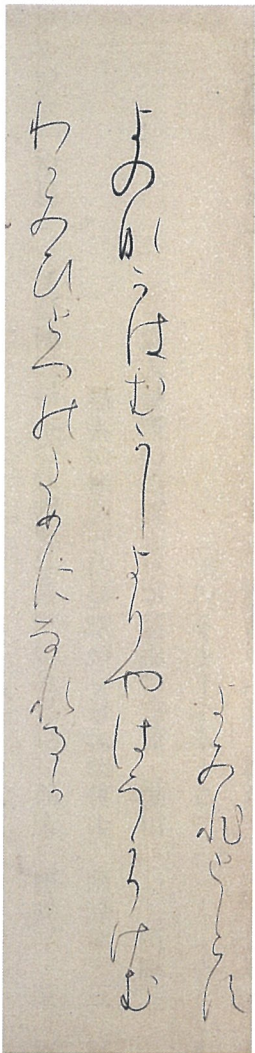
右の図版A・Bはどちらも( ⑤ ) 作の漢詩「赤壁賦」を書いたものである。図版Aの筆者は( ⑥ )、図版Bの筆者は( ⑦ )である。⑥の楷書作品である「出師表」は( ⑧ )の書の趣がある。

- (6) 次の図版A～Cは、「高野切第一種」「高野切第二種」「高野切第三種」のいずれかの一部である。  
ア、イの問いに答えよ。

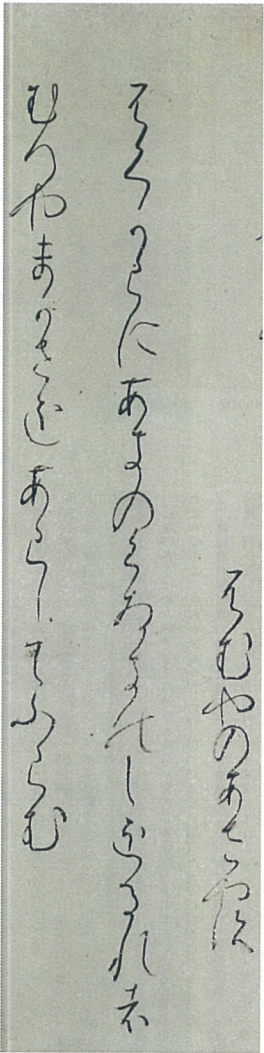
図版A



図版B



図版C



- ア 図版Aの全文を、小学校国語科書写で表記する平仮名で書け。併せて、変体仮名についてはその平仮名の下に（ ）をつけて原字を楷書で書け。

- イ 「高野切第一種」「高野切第二種」「高野切第三種」にそれぞれ当てはまる図版を解答用紙の図版欄にA～Cの記号で記せ。また、三種類の違いがわかるように、それぞれの書風の特徴を記せ。

(7) 授業時に生徒へ説明することを想定し、次の①～⑤についての説明を簡潔に記せ。

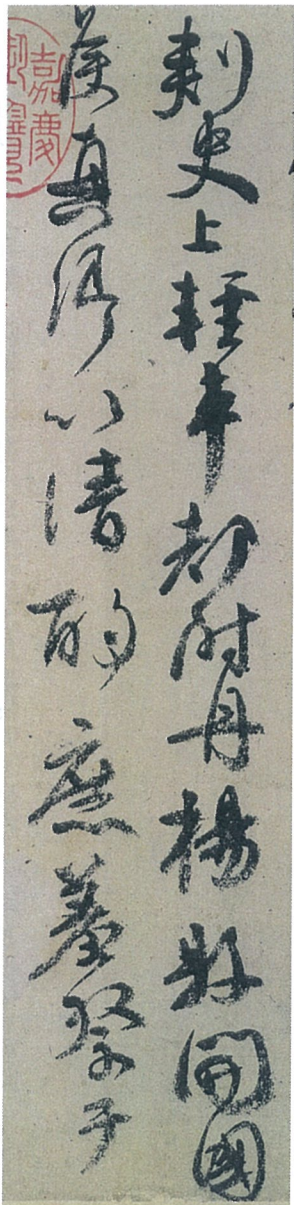
- ① 甲骨文
- ② 側款
- ③ 黄庭堅
- ④ 始平公造像記
- ⑤ 文房四宝

4

書道Ⅱ 漢字の書の学習における「祭姪文稿」(図版A)の指導を左記のように全八時間で計画した。

- 第一次 一時限 「祭姪文稿」の特徴と用筆・運筆との関わりについての鑑賞  
(ワークシートを活用)
- 第二次 二時限 用筆・運筆の学習から半紙での臨書学習
- 第三次 三・四時限 半紙四字書きの臨書作品制作の学習
- 第四次 五・六時限 半切二行書きの臨書作品制作の学習(図版A 一行め一字めから二行め三字めまで)
- 第五次 七・八時限 半切二行書きの臨書作品制作の学習、批評会

図版A



第三次 五・六時限の指導に当たり、高等学校学習指導要領(平成三十年三月告示)第2章第7節 芸術 第2款第11 書道Ⅱの次の項目を指導事項として指導するとき、次の(1)～(3)について答えよ。



## 指導事項

### 2 内容

#### A 表現

#### (2) 漢字の書

ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について構想し工夫すること。

(ア) 表現形式に応じた全体の構成

### 3 内容の取扱い

(1) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については、相互の関連を図るものとする。

(1) 半切を初めて使用する生徒に対して、用具・用材の使い方について指導するときの指導内容を記せ。

(2) 半紙での臨書作品制作を終えて、半切での臨書作品を制作するに当たり、全体の構成に関する指導内容を記せ。

(3) 表現と鑑賞の相互の関連を図るための具体的な指導内容を記せ。

